矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol.3

発　行　日：平成 27 年８月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 26 回山部会WGを開催しました！

7 月 24 日（金曜日）に第 26 回山部会WGが奥矢作レクリエーションセンターにて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する、進捗状況と今後の進め方について話し合いました。

日　時：平成 27 年 7 月 24 日（金）13 時 00 分～16 時 00 分
場　所：奥矢作レクリエーションセンター（大会議室）
参加者：13 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1．山村再生担い手づくり事例集について

今年は、山村再生担い手づくり事例集作成の３年目であり完結の年です。そこで、今回は以下の内容を議論し、今後の活動につなげたいと思います。

①取材先の決定について
　→おいでん・さんそんセンターからも情報提供があり、現時点で 20 を超える団体が候補となっています。本日は取材候補ついて、さらに精査を行い、取材先を決定したいと思います。

②事例集マップ（仮称）の確認について
　→配布の事例集マップ（仮称）について、出席者で確認を行います。

2．山村ミーティングについて

現在、山川海流域フェスティバルの開催ができるよう検討を進めています。現在、以下の２つの課題に対し検討を進めていますが、皆さんのご意見をいただければと思います。

①森林ボランティアや素人山主の見せ方について
　→都会・流域の市民に楽しそうな仕事だと思える見せ方が課題となっています。

②流域のプロの募集方法について
　→目標の技術を競い合う明確なものであるが、流域のプロの募集方法が課題となっています。

3．矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインに関連して、以下の２点を報告します。皆さんのご意見をお願いします。

①森づくりに関する事例等の提供依頼(流域の自治体及び中部森林管理局)について
　→中部森林管理局、岐阜県、岡崎市、西尾市、安城市、碧南市からは回答をいただいており、岡崎市と恵那市の間伐面積は、過去最低となっています。

②欧州型森林管理者研修 in 奈良の参加報告について
　→欧州型の森林管理は、人材を育てるところにウエイトがあります。矢作川流域の森林管理への適用についても、参考にできる部分はあると思います。

4．矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいの活動に関連して、以下の３点について報告します。

①木づかい学習会について
　→各自治体で推進しています。動くおもちゃは県の補助事業に採択されました。

②全国源流サミットについて
　→9 月 4 日～6 日に根羽村で開催されます。

③木づかいガイドラインについて
　→根羽村では 50 年後に人口が 0 にならないようにするための取組をしています。

◆話し合いでの主な意見 （• 意見　➢回答）

●山村再生担い手づくり事例集について

＜今年度の取材先について＞
- 現時点で 25 団体が候補になっている。取材が困難になった場合も想定して合計 22 団体程度を選びたい。（洲崎）
- 日近太鼓（岡崎市）は、太鼓フェスティバルを通して地域おこしに貢献している。今回は、文化的な観点から取材先に推薦した。（沖）
- 蒲郡市漁場環境保全協議会は、矢作川流域圏からは外れるが、周三河湾というくくりで加えたいと思う。（洲崎）
- これまで取材者が少ないことが、取材先数を限定してきた背景がある。（蔵治）

＜山村再生担い手づくり事例集マップ（仮称）について＞
- 今回の確認の結果を反映するとともに、背景図を最新版にしてとりまとめを行う。（中田）

●山村ミーティングについて

- 額田、豊田の旭や足助には名だたる熟練者がいるが、彼らを連れ出すのは非常に大変である。（丹羽）
- 熟練者においても、見せたい人と見せたくない人にはっきり分かれると思う。（南木）
- 地元の森林組合に女性班が誕生したため、多くの取材がきたが、未熟だという理由で取材を拒んだ経緯がある。やはり見せたい人と見せたくない人に分かれると思う。そのため、ボランティアや素人山主に伐採後の切り口を見せて、熟練者が教えるような競わない形式が良いかもしれない。（今村）
- 技術ばかりに目を向けるのはよくないと思う。安全で楽しいということを示すことで、山主をやる気にさせるのが我々の役割である。（丹羽）
- 最近では、林業未経験者がＩターンとして就農している。林業に携わる我々ですら熟練者が分からない状況である。そういう意味では、熟練者をみせる場は必要だと思う。（南木）
- 流域のためには、熟練者も素人もどちらも大切であることを示す必要がある。そのためには、規模が小さくてもよく、あの程度で良いなら俺も出ると思わせることがフェスティバルの目標である。（丹羽）

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

＜①森づくりに関する事例等の提供依頼(流域の自治体及び中部森林管理局)について＞
- 岡崎市の間伐は年間５００ha を目標としているが、昨年は半分以下であり、流域圏全体でみても大幅に減少することが予想される。（蔵治）

＜②欧州型森林管理者研修 in 奈良の参加報告について＞
- 矢作川流域でいきなり極相林を目指すと言われても難しい。現段階では、今ある広葉樹林をどうするか、針葉樹林を混交林にするのかというどちらかの議論しかないと思う。拡大造林政策(単一樹種一斉林)という日本のとった手法は、その方が効率よく経済性も高いという発想からきているため、その発想を捨てないと実用的ではない。（蔵治）
- 根羽村では、人工林と混交林という環境林を残していく方向性は出している。ただ、実際には混交林の整備は進んでおらず、これから検討するというのが現状である。（今村）
- 豊田市と岡崎市がそれぞれ長期森林計画を立てており、人工林の面積を 2/3 に減らして、残りの 1/3 は針広混交林にすると宣言している。しかし、どこでモデル的にやるかという議論は全くない。（蔵治）
- 山主さんには、未だに人工林が儲かる時がくるという思いがあるため、混交林化には非常に抵抗が強い。その中に、エコノミーということもカバーできる混交林化という道があれば、良い流れができると思う。（洲崎）
- 昔の恩恵を受けた世代の人は、切り捨て間伐をもったいないという。人工林と混交林のエリア分けは、保全上必要であると理解を求めているところである。（藤井）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

「矢作川について」（永井千遥さん（当時小学校６年）の作品を観賞して）
- 根羽村の子どもが源流から河口まで旅したという記録は、流域圏懇談会でも取り上げて、その意義について理解する必要がある。山村の担い手事例集が充実してくると寄れる場所が多くなる。旅をしながら、地域の人々の生き方を学ぶのは大切な事だと思う。（今村）
  - ➢ 小学生が、流域で生活をする人に取材しているところが素晴らしい。（蔵治）
  - ➢ この方に取材したいぐらいだ。（洲崎）

今後のスケジュール（予定）と情報提供

次回の山部会 WG は、８月 21 日（金）岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 大森、係長 粂、技官 宇野
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100
＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。